令和2年度　群馬県立農林大学校評価システムシート

令和3年3月22日

目指す学校像	群馬県農林業の多様な担い手育成
重点方針	1　質の高い教育の実行 2　実績の上がる学生募集の実行 3　実績の上がる進路指導の実行 4　県民の期待に応えられる研修の実行

達成度		
	A	100%
	B	80%以上100%未満
	C	60%以上80%未満
	D	60%未満

番号	重点項目	現　　状	評　価　項　目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見
1	質の高い教育の実行	1　これからの群馬県農林業を支える人材を育成する県内唯一の公立農業系高等教育機関で、実践学習を教育の基本としている。 2　課題解決型の研究に取り組み、能動的に学ぶ力を育んでいる。 3　1年次は全寮制とし、寮生活を通して規律・協調・思いやりの精神を育んでいる。 4　農林業の国際化や技術・情報の高度化、農業の6次産業化に対応できる技術の習得や組織活動等のマネジメント能力を養成するため、実践学習を強化し、取り組んでいる。 5　国際水準GAPを教育カリキュラムに導入し、農場等での実習を通して、農業生産技術に加え国際感覚を兼ね備えた担い手を育成している。 6　平成31年3月に、新たな施設園芸経営の形を創造する拠点として「ぐんまイノベーションファーム」が農林大に設置された。IoTやICTを活用した最先端の技術を授業に取り入れることにより、地域農業を牽引する優れた経営者の育成をめざすとともに、地域に開かれた実証モデル施設として最先端技術を発信している。	・学生にとって分かりやすい授業の実施 ・学生がやる気と自信の持てる教育 ・社会生活の基本を身につける ・地域、外部機関との連携 ・教育環境の充実	◎学生の授業満足度評価 「おおむね満足」以上　80%以上	・前期　コース専門科目16科目 （おおむね満足以上評価　81.1%） ・後期　コース専門科目17科目 （おおむね満足以上評価　87.5%）	A	・授業評価はよりよい授業を提供するため継続して実施する （教養科目・共通科目を対象） ・職員の資質向上を図るため継続して実施する （高度農業経営者教育機関が実施する指導力向上研修を活用する） ・アクティブラーニングはプロジェクトを継続するとともに、各コースで導入可能な授業で導入する ・全国プロジェクト発表会での発表を目指し、課題研究の計画段階からコース・全体指導を行う ・学習意欲を高めるため、ヤンマー学生懸賞論文・作文等に積極的に応募する ・研修目的を明確にするとともに、事前指導を徹底し、受け入れ先とのトラブルをなくす ・農林大GAPを実践するとともに、内部審査会を実施し、GAPレベルを維持、改善する。ASIAGAPの維持審査を予定 ・スマート農業を学ぶカリキュラムを実践する ・開発した加工品の販売学習場所の検討 ・イオンスタイル高崎店での販売学習は継続して実施する。より多くの学生に機会を設けられるよう検討 ・就職試験対策、大学編入対策等、学生は様々な目的があって受講するため、継続して実施する ・スクールカウンセラーによる支援を行う ・地域行事に積極的参加する ・100周年記念事業を通して地域や外部機関との連携を深める ・黎明寮2階の改修	・授業アンケート結果の分析と対策の検討をしっかりとお願いしたい。 ・結果の分析と対策を検討するなど、改善に向けての緻密な取組が好結果につながっている。 ・withコロナの時代において、教育環境の充実や授業の工夫など、今後取組を強化すべきことも多々ある。 ・安全・安心な農産物の生産方法（GAP・HACCP）及び新しい農業の魅力（スマート農業、六次産業化、プレゼンテーション能力）を引き続き学生に教えてほしい。 ・課題研究、意見発表で関東ブロックプロジェクト発表会の結果は、上位入賞者無しという残念な結果でした。計画・検討の段階での指導が重要と思われる。 ・スマート農業を学ぶ研修は、学生にとって重要な体験となる。 ・六次産業化学習の強化、販売学習、地域等と連携した商品開発は、学生にとってすばらしい経験となる。 ・課題研究（プロジェクト学習）等で「能動的に学ぶ力を育てる学習」は、たくましく生きる力の育成にとても大切。地域で活躍する農業人の育成に努めてほしい。 ・基礎的な農業簿記（経営財務）、数字から見た経営分析が必要。 ・課題研究、意見発表とも今年度は上位入賞がなかった。計画的かつ戦略的に次年度以降の取組を進めて欲しい。 ・ヤンマー懸賞論文についても応募率を高め、学生の意欲向上に結びつける。 ・スマート農業、GAPなどについては、農林大からの情報が発信を期待する。 ・地域、外部機関と連携して地域に貢献できる産業人の育成を目指すとともに農林大の魅力を地域にアピールしてほしい。
				◎ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ型授業の導入 8科目（各コース1科目以上）	・前期実施（12科目） ・後期実施（16科目）	A		
				◎課題研究・意見発表で全国大会出場 1名以上	全国大会出場者　無	D		
				◎懸賞論文等への応募者（森林コース除く） 1年生　100%	・1年生46名がﾔﾝﾏｰ懸賞論文に応募（森林、社会人コース除く） 銅賞：1名、奨励賞：2名受賞　　応募者73.0%	C		
2	実績の上がる学生募集の実行	1　少子化により減少傾向であった入校生も、HPの更新や学生募集の強化、PRにより2年連続で8割を確保している。（平成31年度86名、令和2年度83名／定員100名） 2　近年の入校生の状況は、非農家出身者が増加（令和2年度入校生：76%）していることと、女子学生が約3割を占めている。 3　本校入校生の約6割が農業高校出身者（令和2年度入校生：60%）であり、農業高校との連携とともに、普通高校へのPRが重要となっている。	・農林大学校のPR ・農業高校等との連携強化	◎オープンキャンパス 参加者数　実参加者120名 参加者の満足度評価 「おおむね満足」以上80%以上	・オープンキャンパス参加者　実参加者（Ⅰ～Ⅵ）実　105名 ・参加者の満足度評価 「概ね満足」以上　95.1%	B	・新しい生活様式に対応（定員制による実施）した運営を継続して実施する ・農林大の魅力を伝え、学生を確保するため継続して実施する ・HPに動画の導入 ・学校教育と行政との連絡会議について開催内容等検討する	・全職員による高校訪問を高く評価します。競合する専門学校や私大農学部が新設された中での学生数維持につながっていると思われる。 ・情報の発信の強化は大切。少子化の中、充実した教育を行うのも入校生の確保が必要。 ・今の少子化時代、選ばれる学校づくりが求められている。学生の心に訴求した魅力ある取組を発信して、他校にない独自のブランド力を確立して、生徒募集に還元してほしい。 ・引き続きHPなどによる積極的な情報発信を期待しています。 ・今年度は新型コロナウイルスの影響で連携行事が中止となってしまったが、次年度はやれるところから少しずつ再開を期待したい。 ・動画配信は学生募集に効果的。次年度はトライしてみてはどうか。 ・入校希望者（合格者）を目標どおり確保できる状況にあることを評価する。
				◎高校訪問　　45校　1回実施	・7月（8校）9月（31校）39校※コロナ渦における訪問高校の見直し	B		
				◎HPの更新回数　100回以上 動画の発信　　10回	・更新回数　81回（2月22現在） ・動画配信　0回	C		
				◎入校生の確保　80名以上	・合格者　80名	A		
3	実績の上がる進路指導の実行	1　令和元年度卒業生の進路決定率は100%で、進路決定者のうち就農23.5%（森林コースを除く25.9%）、就職72.1%、進学4.4%であった。農林業団体への就職が良好であったことが特徴である。 2　森林コースを除く就農率は、近年20～30%と減少傾向となっている。うち雇用就農は70～80%で雇用就農者が増えている。 3　家庭の事情等により、社会に出て経験を積んだ後に就農する学生もいる。 4　近年、林業への就業率は60%を超えている。特に森林組合への就業者は増加しており、林業の担い手として期待されている。 5　感染症の影響により、企業等の経営が厳しい状況であり、採用への影響が危惧される。	（1年生） ・進路希望の把握と進路指導体制の強化 （2年生） ・きめ細やかな進路別指導 ・専門資格取得教育の強化 ・専門資格取得教育の強化	（2年生） ◎進路決定率　　100%	・進路決定率　96.2%（2/25現在）	B	・学生の進路指導のため継続して実施する ・就農率を高めていくために継続して実施する ・公務員志望の学生のために継続して実施する ・就職活動の支援のために継続して実施する ・就職活動に必要であることから、継続して実施する ・就農相談会等の情報提供を行い参加を誘導する ・農業の魅力を伝えるため継続して実施する ・就農相談会等の情報提供を行い参加を誘導する ・特別講演会は、農業の魅力を伝えるため継続して実施する ・農業法人、農業経営士、農村生活アドバイザー、農林大OB、フロントランナー卒塾生、農業女子など多くの先輩農業者から学ぶ機会を設ける	・コロナ禍で進路指導も大変だと思います。社会に出て経験を積んだ後に就農する学生もいるようですが、進路決定の就農が23.5%という数字は少なく、これからの日本の農業が心配。 ・毒物劇物取扱者の合格率が目標の2倍以上の成果を達成できた事は、補講8回の実施などにより結果を出せたものとして高く評価する。 ・いろいろな専門資格の取得を取り入れてほしい。 ・学生のうちになるべく多くの資格がとれるよう指導してください。 ・就農率の向上（昨年度D）が見られました。新型コロナウイルスの影響もあると思われますが、今の状況（追い風）をうまく利用して、継続的な就農率向上を目指してください。
				◎就農率　　40%以上	・就農率（森林除く）　34.9%	B		
				◎林業関係の就業率　60%以上	・就業率　68.8%	A		
				◎日本農業技術検定（2級）の資格取得者割合　30%以上	・資格取得者割合　25.4%	B		
				◎合格率 毒物劇物取扱者　　30%以上 危険物取扱者（乙4類）30%以上 農業機械系資格　　100% 狩猟（わな猟）免許　100%	・毒物劇物取扱者　　66.7% ・危険物取扱者（乙4類）　26.9% ・農業機械系資格　　100% （大型特殊農耕車限定） ・狩猟（わな猟）免許　　100%	A B A A		
4	県民の期待に応えられる研修の実行	1　令和元年度の農業実践学校は、定員136名を超える156名の応募があり、書類選考と面接により142名が入校した。その中で、野菜専門技術課程の修了生は、全員が営農計画を策定し就農することができた。 修了3年後（平成28年度実践学校各課程修了者）の農業従事率は82.8%であった。 2　農業機械研修は、大型トラクター免許取得研修、作業機械研修、安全研修等を実施している。道路運送車両法の運用緩和により、免許取得研修の希望者が多くなっている。 3　令和元年度の公開講座は、果樹、野菜づくり、加工、農業機械まで幅広いテーマにより、一般県民を対象とした9講座を計11回行い、参加者数は延べ266名であった。 感染症の影響で3月に開催予定の1講座は開催を中止した。	・多様な研修ニーズに対応した「ぐんま農業実践学校」の運営 ・県民ニーズに対応した農業機械研修の実施 ・農林業に対する理解を深める公開講座の開催	◎実践学校研修生の満足度評価 「おおむね満足」以上　90%以上	・評価「おおむね満足」以上 2月末現在の修了課程平均　93　%	A	・感染症予防対策のもと、研修の満足度を保って実施 ・受講者への意向調査を行い、改善策を検討 ・研修生確保に向けJA、市町村との連携を継続 ・感染症予防対策の継続 ・増加が見込まれる免許取得希望者へ対応した実施回数を継続 ・農業労働力確保緊急支援事業に基づく研修を継続して実施 ・農業機械安全利用研修を継続して実施 ・次年度の公開講座は、やさいづくり講座（3回）	・実践学校研修修了者の満足度93%、修了3年後の就農率86%は、研修の成果として高く評価できる。 ・県民の期待に応えられる研修については、今後とも力を入れていって欲しい。） ・新たに始めたトラクター操作講座は、現場のニーズにマッチしたとてもよい取組だと思う。研修内容の充実強化を図ってください。 ・農業労働力確保への対応など、新たなニーズに積極的に取り組んでいることを高く評価したい。 ・農業機械による事故は依然として多い状況にあるので、農林大の使命として安全利用のための研修について、引き続き充実強化をお願いします。 ・学生教育と並ぶ柱として、県民から高い評価を得ており、素晴らしいと思う。 ・研修で終わりではなく、その後のフォロー、仲間づくりなど、研修を受講して良かったと思えるような取組をこれからも進めてください。
				◎実践学校研修生の定員確保 100%	・入校者数/定員（開校できたもの） 93/82名　　定員充足率　113　%	A		
				◎実践学校修了時の就農率 野菜専門技術課程　　100% 実践学校全体　　95%	・就農率 野菜専門技術課程　　100　% 実践学校全体　　96　%	A		
				◎実践学校修了3年後の農業従事率 80%	・農業従事率（H29研修終了者）　86　%	A		
				◎大型特殊自動車免許等取得 合格率　　100% 研修日数　2日の短縮	・免許取得の合格率 大型トラクター基礎研修　　100　% 大型トラクターけん引研修　　100　% ・研修日数は8日から5日へ3日間短縮した。	A		
				◎労働力育成強化研修の開催回数と受講者数　17回／188名	・受講者数　13回／202 名	A		
				◎農業機械安全研修の開催回数と受講者数　　20回／200名	・安全研修開催数と受講者数　16回／214名	A		
				◎公開講座受講生の満足度 評価「おおむね満足」以上　90%以	・公開講座は感染症対策のため中止	―		